

碧南市青少年育成市民会議だより

ふれあい

編集発行
碧南市青少年育成市民会議
碧南市源氏神明町4
TEL (0566) 42-3511

コロナ禍の中の成人式 二部制で

1月10日(日)コロナ禍のため開催が心配される中で成人式を開催しました。三密を防ぐため二部制とし、第一部を新川中、中央中、西端中出身の成人で、第二部を南中、東中出身の成人で行いました。また、入場前の検温や問診、マスク着用などコロナ対策も万全にして臨みました。大きな声を出さないよう呼び掛け、成人式は粛々に行われました。

毎年、いろいろなことに挑戦する実行委員。今年は、皿回しやディアボロ、グラフィックポイなど最新の大道芸にチャレンジしました。新成人の手拍子の中、音楽に合わせて華やかな演技を披露しました。

今年のテーマは『一期一会』です。これまでの、そしてこれからの出会いを大切に生きていこうと誓い合いました。



より明るい未来へ 新たな誓い

成人式実行委員長

関 雄 太

コロナ禍の中、多くの方々のご協力とご指導のもと、成人式を開催できたこと、無事に終えることができましたことを、深く感謝申し上げます。

今年の成人式のテーマは『一期一会～この縁を大切に新たな一歩へ～』。一生にただ一度会うかどうかかわからぬほどの縁。一期一会は「その出会いを大切にする」ということです。この20年間に会った様々な人たちとの縁を大切に、感謝を忘れずに新たな未来への第一歩を踏み出していこうという想いをテーマに込めました。そして、碧南市内中学校出身の13人で組織した私たち成人式実行委員会は、約1年間かけて成人式を構成していきました。

今年の成人式は、例年とは違い、コロナ禍という中での構成であり、コロナ対策を含めて様々な工夫が必要でした。二部制、アルコール消毒や検温など感染対策を行いました。式を作り上げていく中で、思うように進まず、挫けそうになってしまうこともありました。しかし、そんな中でも、実行委員会のメンバーで励まし合い、市の方々の協力を得ながら、困難を乗り越えることができました。

コロナ禍のため、昨年のアカペラのように大きな声で歌うことはできません。そこで、私たちは、未来へ

向かっていく挑戦として、今までの成人式で行ったことのない大道芸に挑戦することにしました。皿回しやディアボロ、グラフィックポイという、本番の緊張の中では失敗することもあり得る芸です。約3か月間、学業や仕事に忙しい中、皆で集まり練習を積んできました。

本番では、失敗はあったものの、一人ひとりが一生懸命披露したことで、会場も盛り上がりました。成人式を終えて、参加してくれた同級生や市関係者の方々から「感動した」「式をやってくれてありがとう」など、たくさんの言葉をいただきました。大道芸に挑戦してよかった、大道芸を通して私たちの未来への挑戦の想いを伝えることができてよかったなと思いました。

今回、全国各地で成人式の開催延期、中止が多くある中で、私たちは開催できてよかったと感じます。開催できる環境を作ってくださった様々な方には感謝してもしきれません。

この難しい時代を生きていく中で、今まで出会った人たちとの『縁』を忘れずに、今後起こり得る困難の壁に立ち向かっていき、より明るい未来へ羽ばたいていけるように、新成人一同、自分の歩幅で歩いていきたいと思っています。



第17回「親子キャッチ575」 最優秀作品と表彰式

青少年育成市民会議

「親子キャッチ575」の作品募集に、市内の小中学校、高等学校からたくさん応募をいただき、3,365点の作品が集まりました。そして、表彰式を令和2年11月7日(土)、碧南市文化会館で行い、最優秀作品、優秀作品の合計30点を表彰しました。

今年は、例年の作品テーマに「コロナ禍における生活の様子や思い」を加えました。日頃当たり前と思っていたことがそうではないこと、あらためて親子の絆を深めるなど、今年ならではの作品が集まりました。感心したり、感動したり、それぞれの思いが込められ、温かい家族の様子が伝わってくるものもたくさんありました。



第17回 親子キャッチ575最優秀作品

かっこいい

いつもとちがう パパのかお

大浜小学校一年 有井 優太

テレワーク
熱い視線に 照れちゃうよ

父

たいおんけい

朝のしゅくだい ひとつふえ

中央小学校二年 杉山 藍加

熱何度？

朝の話題 ひとつ増え

母

おかあさん

えがおでいてね これからも

大浜小学校三年 明石 蒼空

母さんの

笑顔の数は 君次第！

母

負けないで

医療従事者 お母さん

中央小学校四年 石川 蒼

力出る

わたしのかわいい 応援団

母

コロナさえ

たおすいきおい 家の母

西端小学校五年 鳥居 実夢

宿題を

さっさとやれば ツノ生えぬ

母

じまんだよ

かわいいマスク 手作り

西端小学校六年 中島 夢心

嬉しいよ
会えずに作る 孫のため

祖母

イベントも

すべてが中止 コロナでね

中央中学校一年 石黒 仁

サプライズ

花火を見上げ 涙する

母

もういいよ

普段の日常 戻ってこい

中央中学校二年 脇門 桜祐

何気ない

日々の幸せ 気付けたね

母

コロナ禍で

俺のスマホは フル回転

西端中学校三年 鳥居 飛佑

スマホにも

休業要請 発令だ

父

僕たちの

青春削った コロナさん

碧南工業高校一年 岩瀬 敬人

気付いたね

笑い合う日々 奇跡だと

母

おやじの会

おやじの会の活動のねらいは、「父親同士の交流を図って連帯感を高めること」「子育てを母親任せにしないで、父親も家庭教育に関心をもつこと」「子どもの理解を深め、子どもからの信頼を得ること」です。そして、それぞれ親子参加型のイベントを工夫し実践することで、地域ぐるみでの子育て、親育ての一助を担っています。

今年は、コロナ禍のため、予定していたイベントが思うようにできませんでした。その中で、屋外活動を工夫し、子ども会や青少年育成推進委員会と協力し合って活動を展開しました。また、成人式にも場内警備や誘導の係として、新成人の新たな旅立ちの手助けをしました。

棚尾 稲刈り

5月の田植えから10月の稲刈りを経て12月にもちつき大会を行うイベントを企画しています。今年は、コロナ禍のため、田植えをおやじの会スタッフで行い、多数の親子に稲刈りに参加していただきました。残念ながら感染拡大防止のためもちつきも実施できませんでしたが、収穫したもち米を業者をお願いしてのし餅にし、稲刈りに参加した親子に配布しました。



西端 いも掘り体験

10月25日(日)地域の親子を集めていも掘り会を行いました。おやじの会が5月に植えたサツマイモです。今年は新型コロナ対策の上、午前午後の2部制にして行いました。97名の参加者があり大盛況で、子どもたちの歓声と笑顔がいっぱいでした。畑で焼き芋にし皆で食べました。焼き芋もホクホク、家へのお土産のイモを抱え、大満足でした。



中央 110番スタンプラリー

12月20日(日)青少年育成推進委員や子ども会の方々とともにこども110番の家スタンプラリーを行いました。中央学区にはこども110番の家が45か所あります。この中の3か所ほどをチェックポイントとし、公民館や小学校周辺の110番の家を確認しました。



日進 花植え

日進地区では、毎年クリンピーのある春と秋に道路沿いの花壇に花植えを行います。今年も日進みらいの会や中学生ボランティアとともに行いました。校区の道路沿いにはいつも色とりどりの花があり、心に優しさを届けてくれます。



大浜 防災クイズラリー

8月30日(土)子ども会が主催する親子防災クイズラリーに協力参加しました。おやじの会では、チェックポイントで子どもたちが楽しめるコーナーを担当しました。防災クイズだけでなく、水風船つりやくじ引きなど、楽しみながら防災について学ぶことのできる活動になりました。



大人の笑顔が子どもを育てる

碧南青年会議所理事 竹 中 瑛 智

皆さんの考える大人とは、どんな人でしょうか？

自分の発言や行動に責任をもてる人、一生懸命働いている人、親切で思いやりのある人、自分と他人の違いを尊重できる人。「大人とは？」と聞かれたら様々な答えがあります。

しかし、これらの答えは大人の考える大人であり、子どもたちの考える大人とは自分のすぐ身近にいる大人です。子どもたちは身近な大人の言葉や行動を見ています。そして、大人へと成長していく過程で多くの影響を受けます。

私が日々の生活の中で、素敵な人だなと感じる大人を想像すると、その人は共通して笑顔の多い人です。笑顔であることなら自分にもできます。

身近な大人が笑顔の絶えない人であれば、笑顔あふれる子どもになり、笑顔あふれる大人へと成長していくことでしょう。

大人から子どもまで、笑顔あふれるまち碧南。そんな素敵なまちづくりをまずは自分が率先して行い、身近な子どもが笑顔になっていくのを笑顔で見守っていけたらと思います。



大人の務め

碧南高等学校PTA会長 金 田 雪 雄

子どもと言い争いになった時、私の喋り口調を写した子どもの何気ない一言にハッとすることがあります。そんな時、子は親の鏡であると痛感し、己を戒めるものです。

また、「頑張れ」と声を掛けると、心の中で（頑張っとるわー。うるさいなあ）と、口に出さないものの、反感を買う場面。子が親の鏡であるなら、「頑張れ」の声掛けよりも、頑張っている親の姿を見せることの方が、時に大きな力や道標を与えることになると思います。

何かに一生懸命に取り組み、一人だけの世界で回りが見えないくらい集中する姿。成果を子どもに見せられれば最高ですが、結果がどうであれ、「こんなことにこんなに一生懸命になっていいんだ」と子どもに感じてもらえれば、大成功だと思っています。

あとは、本人のやりたいことや、やるべきことができるように、ちょっとだけ力を貸してやればいいんだと。

手本を示すことと、きっかけを与えること。それが大人の務めだと思っています。

コロナ禍の中での親子キャッチ5

碧南少年補導委員 服 部 三千子

私はこれまで市民会議の中で親子キャッチ部会に携わってきています。

親子キャッチは、俳句形式の575で子どもの気持ちを表現し、お互いを理解し、親子のふれあいを深める目的で、平成4年に始まりました。今年で17回目となります。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、夏休みも不規則となり、当たり前と思っていた日常が失われ、いつもの違った生活を強いられました。

そこで、今年度は新型コロナ影響下における生活をテーマに加えたところ、3,365点の応募がありました。読ませていただいたどの作品からも、家族の姿、生活様式、笑顔が思い描かれ、思わず笑みがこぼれる作品ばかりでした。

新型コロナの影響で生活が制限されることも増えてきましたが、反面、お家時間が増え、家族のふれあいの時間も増えました。親子のコミュニケーションが深まれば、温かな家庭の中で子どもたちの心が育まれるものだと思います。親子キャッチ575が家族の絆が深まる一つのきっかけになりますように、来年もどしどし応募していただけることを期待します。

子ども会のできること

子ども会育成連絡協議会会長 佐 藤 聖 志

核家族化が進んだ今、三世代家族は少なくなりました。そんな中、社会の価値観も多様化し、なかなか家庭だけで子どもを育てることは難しくなりました。

将来、様々な人と人間関係をつくり社会を生き抜くためには、コミュニケーション能力の向上が不可欠です。その能力を伸ばすのに大切な時期が子どもの時だと思います。

コミュニケーション能力を伸ばすことで、

①自分の気持ちが伝えられるようになる

②相手の気持ちが考えられるようになる

③自分の可能性が広げられる

こんな効果が期待されます。

コミュニケーション能力を育成するためには、子どもの時から多くの人たちと関わる経験が大切です。ところが、学校では同学年で過ごすことが多く、横のつながり、かかわりは学習できますが、異学年間の交流はなかなか経験できません。

それを補い、異なる学年の子どもと交流できる場が子ども会です。親も一緒に子ども会活動に積極的に参加し、地域の方たちとともに子どもの社会を生き抜く力を育てていきませんか。